

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

H26.9.3
仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全36のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた本年度到達点の達成を目指して取り組みを進めている。

事業のさらなるステップアップや課題を抱えている案件について、人材育成の講座への誘導、アドバイザーの派遣、各種補助金の活用など、場面に応じた支援事業を導入し、関係機関と連携した具体のサポートを実施している。

特に、現在、リニューアルオープンに向けて整備を進めている日高村の直販所「さんさん市」については、経営改善や運営体制の確立に向けて日高村との情報共有、推進のための協議を続けている。

農事組合法人ヒューマンライフ土佐の薬用作物栽培の事業では、県内での産地拡大に向けて、事業主体、越知町や農業振興部が連携した取り組みが本格的にスタートした。

また、平成22年度に設立し、旅行会社によるツアーの実績を大幅に伸ばしてきた仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしており、引き続き、仁淀川地域の観光資源の掘り起こしを図り、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めるとともに、来年度以降の協議会の体制の維持・充実に向けて協議を進めている。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特色を活かした多様な農業の展開</p> <p>■No.3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・農事組合法人ヒューマンライフ土佐</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ミサロ作付面積：70ha カショウ作付面積：80ha ダイダイ作付面積：30ha</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>ミサロ作付面積：60ha カショウ作付面積：80ha ダイダイ作付面積：30ha</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ミサロ作付面積：52ha → 実績 52.1ha カショウ作付面積：65ha → 実績 50.8ha ダイダイ作付面積：23ha → 実績 25.3ha</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンライフ土佐の通常総会開催(6/10)に向け、産振アドバイザー制度を活用して、財務諸表の分析、課題の抽出や総会資料作成を支援 ・越知町長の柗ツムラ訪問に同行し、ヒューマンライフ土佐との関係強化や薬用作物の栽培促進について協議(5/22)

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏秋トマトの出荷販売計画の検討 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地コンセプトを理解し、実践できる農業者の育成 ・光センサー等整備についてアンケート結果を踏まえた協議を実施 ・他産地商品との差別化した販売戦略の展開(夏秋トマトの規格外品「ふぞろいトマト」の系統販売) ・台風12号、11号の被災によりJAコスモス日高集出荷場が浸水し、機械設備がダメージを受ける。修繕にかかる費用は3億8千万円となる見込み。 <p>「攻めの農業実践緊急対策事業」の活用を検討中</p>
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No.13 仁淀川流域における木材産業の振興(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合 ・林業事業者 ・素材生産業者 ・製材業者等 	<p>[目標(H27)]</p> <p>素材生産量: 6.3万m³</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>素材生産量: 6.0万m³</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量: 5.5万m³ → 実績 5.9万m³</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進ワーキンググループ(林業事務所内に新設)による管内24事業者への聞き取り調査実施 ・事業説明会を開催し、新たな補助事業等の周知を徹底 ・仁淀川森林組合製材工場の完成に向けた支援(6/9完成) ・森の工場新規認定1団地。既設森の工場9団地の事業計画ヒアリング(6月) ・森林経営計画作成指導(4~7月:7事業者) ・韓国建設企業団の産地商談会のサポート(4/17、5/27)。住宅用構造材及び内装材1棟分(ソウル市)を受注(6月)→住宅用構造材1棟分を高知新港より輸出(8/14) ・仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン建築物の開発・販売促進の取組について、農商工連携基金助成事業の活用に向けた企業への支援(7月)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に向けた体制づくり ⇒林業事業者の増産能力、体制づくりの具体的な進捗状況や課題を把握するなど、事業者等との情報共有を図りながら取組を進める。 ・韓国での高知県産木材による住宅建築の拡大 ⇒産地商談会への同行支援など県の信用力を活用した取組を進める。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>「宇佐のうるめ」の消費拡大</p> <p>■No. 15 うるめのブランド化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合宇佐もん工房 	<p>[目標(H27)]</p> <p>うるめ商品の販売額: 1億円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額: 6,500万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>うるめ商品の販売額: 5,000万円 → 実績 5,109万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度の売上: 約51,094千円(前年比140%) ・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催(4月) ・各種イベント、商談会へ参加 ・観光振興部と地域本部が進める「食の旅行商品化」事業にアドバイザーを導入し、1回目のWGを実施予定(8/26) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度売上目標6,500万円の達成に向けて、さらなる販路拡大が課題 ⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。 ・売上の増加に伴い原材料であるうるめの確保が必要 ⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。
<p>「土佐和紙」の販売の促進</p> <p>■No. 16 「土佐和紙」の販売促進と保存・継承(土佐市、いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・i-nos.net 他 	<p>[目標(H27)]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H26到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円(現状の確保)</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額: 6.6億円 → 実績 5.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の販路拡大を支援(伝統的工芸品等支援事業が採択される8/1) ・いの町商工会が、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業を活用して、中心市街地活性化のために策定したプランの中で、紙の博物館を拠点として「紙の町」をPRしていくことが決定。現在、実践に向けて協議中 ・紙の博物館リニューアル準備会の開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 ⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度開催予定の高知国際版画トリエンナーレ展やH27年に30周年を迎える紙の博物館の記念事業を契機とした館への集客と販路拡大の取組強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒「高知家統一セールスキャンペーン」(H26年度重点プロモーション品目「土佐和紙」)のプロモーション事業との連携 ⇒作品出展者等への版画用紙の見本帳の配布や会場での版画用紙の販売、トリエンナーレ展の会期中の土日祝日には、「土佐和紙職人市 in トリエンナーレ展」を開催し、土佐和紙の知名度アップを図る。 また、紙の博物館30周年記念事業については、いの町商工会が策定した中心市街地の再生に向けたプランとも連携し、集客力アップにつなげる事業(土佐紙まつり(仮称))を開催 <ul style="list-style-type: none"> ⇒紙の博物館(展示物、販売コーナーなど)の魅力ある施設づくりを検討
<p>仁淀川流域の広域観光の推進</p> <p>■No.26「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進(仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川地域観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・さかわ観光協会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：730人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：56,000人 主要観光施設の入込数：140,000人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：3,500人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人 主要観光施設の入込数：138,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：2,500人→実績3,660人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人→実績46,703人 主要観光施設の入込数：138,000人→実績138,021人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月末の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が1,848人(前年比109.2%)と引き続き数字を伸ばしている。 ・昨年に引き続きカヌー、ラフティングといった川遊びのメニューが好調を維持している。 ・協議会主催の観光物産PR(岡山市「京橋朝市」に出展10/5)や「仁淀川ひなまつり回廊(H27.2~3月)」の実施に向け準備中

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ(7/15リニューアル)、ツイッター等のインターネットツールやパンフレット・マップ(個人・エージェント向け)による情報発信を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版ふるさと雇用事業を活用しているが、H27年度からの財源確保が課題 ⇒通常総会(方向性の決定は幹事会に委任)にて、財源確保の努力を続け、現行のプロパー職員2名体制を維持する方向を確認 ・ツアーの造成が進むことによって、オペレーション業務、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が不足してきており、新規の旅行会社の開拓、ツアーの造成が困難になってきている。 ⇒広域観光を推進するための県の方向性と歩調を合わせて、地域観光協議会の体制整備を検討する。 ・ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえる楽しみ方の提案が欠かせない。 ⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の醸成を図る。また定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>本川きじの生産羽数: 6,800羽</p> <p>[H26到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数: 6,800羽</p> <p>[H25到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数: 6,375羽 → 実績 4,365羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーの導入及び県中小企業団体中央会をアクションプランのチーム会に招き、本川きじ生産組合の法人化(H26.12月を予定)に向けて協議中 ・新商品「きじ生ハム」の試作品が完成 ・貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機などの生産設備の整備を町単独事業で実施予定(施設は町有) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上を伸ばすための新たな販路の開拓

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 集客施設を核にした高岡地区の活性化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐市商店街活性化推進協議会等 	<p>⇒法人化に向けた経営計画の策定の中で、販売戦略を構築中</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では、売上が冬期に集中しているため、通年で販売できる商品開発が課題 ⇒現在、生ハムの試作品段階であり今後、味の調整やパッケージや単価の検討などを行い、早期の商品化を目指す。また、「きじ重」のレシピ開発にも着手予定。 安定した生産体制の構築 ⇒昨年の夏期の暑さによるダメージを踏まえ、孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。また、経営の安定化に向けた生産組合の法人化や、生産体制の安定化及び品質向上のための設備投資を行う。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>施設直販市での販売額：79,000 千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>施設直販市での販売額：62,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>直販所の売上：62,000 千円 → 実績 42,581 千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐市、商工会、JA、地域本部のメンバーでドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を立ち上げ、運営改善に向けた協議を継続して実施 6月から産振アドバイザーを導入し、施設の管理、運営方法の改善に向けて助言を受けている。 来場者数:H26年度(4~7月)37,517人(前年比86.2%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ドラゴン広場は、地域の産品販売、観光情報発信、地域住民のコミュニティーの場といった役割を果たしているが、集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題 ⇒ドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を定期的に開催して、集客と売上増の検討と実践を続ける。 ⇒魅力ある直販所とするため、レジ・陳列等の売り場全体のレイアウトを変更。今後、POPやのぼり旗等でさらに魅力ある売り場づくりを行う。 ⇒直販所の商品、出荷者を増やすため、集荷の仕組みづくりや生産者等へ出展の呼び掛けを続け、JAとさし女性部とも連携した取り組みを行う予定。また、観光客等の満足度を高め、売上増につなげるため、仁淀川流域の産

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町 ・いの町商工会 	<p>品等による「お土産コーナー」の設置を検討する。 ⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も課題等に応じ、積極的に産振アドバイザー制度を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を行う。</p> <p>[目標(H27)] いの町商店街の空き店舗率：20%未満(H23 25.3%)</p> <p>[H26 到達点] いの町商店街の空き店舗率：21%未満</p> <p>[H25 到達点] いの町商店街の空き店舗率：21%未満 → 実績 21%</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業の実践の年であり、いの町中心市街地の再生に向け策定したプランをもとに取り組みを進める。 ・商工会、観光協会、紙の博物館、手すき職人、製紙会社、生産農家、飲食店等の実践者による協議を経て、各事業の企画を仕上げている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの実践に当たって、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要となる。 ⇒「紙」、「職人」、「食」、「仁淀川」の4つをテーマにそれぞれの部会で商品開発やイベント企画を行い、「土佐紙まつり(仮称)(H26.10/11~12/14)」で発表 ⇒観光振興部と地域本部が進める「食の旅行商品化」の取組の中で「生姜料理」の商品開発に取り組む。 ・商店街の情報発信の拠点である「暮らしのかけ橋交流館なないろ」(運営：いの町商工会)の効果的な運営 ⇒消費者と商店主をつなぐ企画商品づくりや、PR活動の実施 ⇒H27.10月で施設の賃貸期限が切れるため、その後の運営体制を検討
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)高知アイス 	<p>[目標(H27)] 冷菓等の販売額：4.37億円</p> <p>[H26 到達点] 冷菓等の販売額：4.31億円</p> <p>[H25 到達点] 冷菓等の販売額：4.12億円→実績 3.92億円</p> <p>[取組状況]</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進(仁淀川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)フードプラン ・仁淀川町 	<ul style="list-style-type: none"> ・直営売店でのH25年度売上12,238千円(前年比312%) ・販路拡大を目指し、海外(シンガポール、香港、アメリカ、マレーシア)の商談会等に積極的に参加 ・取得したハラール認証を生かしてマレーシアでの販路拡大の取組を実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外での販路開拓やハラール認証を生かした需要拡大に対応した生産設備の整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒冷凍保管庫を工場敷地内へ設置し、ストック容量の増と出荷作業の効率化、コスト削減を図る。 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・新たな海外販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ⇒中東ドバイでの商談会に参加 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・冷菓等はシーズン商品のため、四季を問わず販売できるスイーツ等の販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ⇒新商品のパッケージと持ち帰り商品用手提げ袋のデザイン制作 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) ・工場視察、直営売店への来客者の増加に伴い、既存施設では来客者の満足度を十分満たすことができなくなっている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒売店の飲食スペース及び物販コーナーの増築 ⇒工場視察用の窓の設置 ⇒産振総合補助金採択申請中(8/22審査会) <p>[目標(H27)] 販売額：4.0億円</p> <p>[H26到達点] 販売額：5.2億円</p> <p>[H25到達点] 販売額：4.9億円 → 実績 4.8億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ事業(6/13交付決定)の活用により、経営分析、経営計画づくりに取り組んでいる。(第1回7/23) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設での生産能力が限界に達しており、需要に対する対応が不十分。経営計画に基づく会社運営がなされておらず、人材育成、組織体制の弱さも課題 ⇒経営コンサルタントの参画による経営方針、経営計画の

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 売れる商品づくりによる地産外商の推進 (佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐川町 ・ J A コスモス ・ 佐川町商工会 ・ 企画本舗さかわ屋 ・ 地元酒造会社 ・ 地元乳業者 ・ 地元加工業者 ・ 黒岩じるし ・ 地元酪農家 など 	<p>策定を行い、経営の改善と設備投資に向けた財務環境の整備に取り組む。</p> <p>⇒財務環境の整備の進捗度に応じて、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用した施設整備を検討する。</p> <p>[目標 (H27)] 生乳出荷量：480t</p> <p>[H26 到達点] 生乳出荷量：380t</p> <p>[H25 到達点] 生乳出荷量：270t → 実績 326t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地乳プロジェクト会の定期開催による新商品開発の検討 ・ 地元農産物を使用した加工品の開発等の検討 ・ 地元事業者が「佐川ものづくり支援事業補助金」や「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」を活用し、地乳や農産物等を使用した新商品（地乳アイス新製品、ニラ佃煮、紅茶を使った焼菓子等）の開発を進めている。 ・ 地元乳業者が「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の活用により、牛乳の安定的な製造のための設備整備等に取り組んでいる。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売上高を伸ばすために地乳のブランド力を高めることが必要 ⇒乳業者を中心とした酪農家との関係強化や生産基盤の強化に取り組む。 ・ 地乳を使った新たな商品開発や、地乳に対する消費者の認知度を再び上げることが必要 ⇒「佐川ものづくり支援事業補助金」を活用し、「さかわの地乳」シリーズ認定シールと販促グッズの作成に取り組む。 ⇒佐川町や佐川町商工会、事業者等と連携し、地乳プロジェクト会等において新商品開発の検討を進める。 ⇒さかわの地乳をテーマにした販促イベントの企画を行う。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)エスエス</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：9,000 万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円 → 実績 2,226 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日産 400 ケースを目指した生産体制の調整 ・OEM 先と連携した販路の拡大 ・OEM 先であるアース・バイオケミカル(株)から要望のあった原料・製品をストックする倉庫を、工場に隣接した場所に日高村が確保 (H26.5 月から供用開始) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OEM 先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 <p>⇒OEM 先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。</p> <p>⇒現在、日産 350 ケース前後を供給している状況。今後も、海外への輸出拡大を含む OEM 先の販売促進の取り組みに合わせ、安定的な製造に取り組む。</p>
<p>■No. 25 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>施設での販売額等：103,200 千円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>施設での販売額等：65,170 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700 人 → 実績 12,500 人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振総合補助金を活用した直販所「さんさん市」のリニューアル工事は、10 月末までに完成し、11 月のオープンを目指している。 ・新たな施設は、これまでの直販所の機能のほか、新たに観光情報発信コーナー、飲食コーナーを備えたものになる。 ・産振アドバイザー制度で派遣したアドバイザーを村単独事業で確保し、運営体制の整備、PR やイメージ戦略の策定等、リニューアルオープンに向けた準備を進めている。 ・公募により「駅長(支配人)」を採用 (H26.7 月) ・運営組織となる法人の設立手続を開始 (H26.7 月設立) ・仮店舗での営業開始 (H26.5 月末～) ・7 月から産振アドバイザーを導入し、直販所に隣接する農産物加工施設の改修、特産品の開発等に向けて助言を受け

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町 ・さかわ観光協会 ・佐川町内の地域づくり関連団体 	<p>ている。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の品揃えと販売の仕組みの磨き上げや、運営主体となる新法人の経営体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の整備を進める。 ⇒引き続きアドバイザーの助言を得ながら、法人設立及び売上向上、安定した運営のための準備、特産品の開発を進める。 ⇒お客様がわざわざ来店する魅力的な加工品の開発 ・台風12号、11号の被災により仮店舗及び建築中の新店舗(基礎・柱)が浸水したが、仮店舗は、8/11から営業を再開。新築工事は進捗に大きな遅れはないが、流出した木材の消毒・乾燥と、トイレの電気設備の取り換えが生じた。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人 → 実績 9,699人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町歴史的風致維持向上計画がH30年度までの5年間延長となり、竹村家分家旧竹村呉服店の修復・保存事業や、司牡丹酒造(株)1号蔵他酒蔵群修復・保存事業が新規メニューとして追加された。 ・まち歩き観光ガイド(NPO法人 佐川くろがねの会)利用者数が大幅に増加(H24年度：1,339人→H25年度：2,986人→H26年度4～7月：1,600人) ・多くの観光客をご案内しているNPO法人 佐川くろがねの会が、産振アドバイザー制度を活用して観光ガイド養成研修を実施し、ガイドの増員やガイド台本基本編2種(携帯版、詳細版)の作成等、くろがねの会の基盤強化につながった。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さかわ観光協会を中心とした佐川町の物産販売や情報発信、地域発の観光メニューづくりの強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒浜口邸での物産販売、観光情報発信機能の整備 ⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進 ⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 34 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進(越知町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など 	<p>連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。</p> <p>⇒佐川町上町地区でのにぎわいを、町内に広げるための戦略づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町の観光振興に向けた関係機関の役割分担と機能強化 ⇒産振アドバイザー制度の活用による、さかわ観光協会のおもてなしの質の向上 <p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額：6,000万円</p> <p>体験メニューの造成：6メニュー</p> <p>案内人養成数：6人</p> <p>ラフティングインストラクター数：8人</p> <p>[H26到達点]</p> <p>施設での販売額：6,300万円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>施設での販売額：6,000万円 → 実績 6,278万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅物販経営協議会(毎月1回開催)による販売体制の強化に向けた協議 ・カヌー、ラフティング救命救急講習(4/12) ・カヌー、ラフティングの利用者増加(H24年度：カヌー282人、ラフティング530人→H25年度：カヌー840人、ラフティング998人→H26年度4月～7月：カヌー254人、ラフティング302人) ・産振アドバイザー制度を活用した情報発信力向上講座(Facebookを活用した情報発信)の開催(6/2、25) ・横倉山案内人養成講座の開催(6/26) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売体制の強化 ⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。 ⇒産振アドバイザーの指導を活かし、POSシステムデータを活用した商品別・生産者別の売り上げ状況の分析や出荷者へのフィードバックの取り組みを進める。併せて、POPの活用や商品の並べ方等による客単価の向上など、顧客目線のサービス提供に取り組む。 ⇒年間の売上状況を出荷者に提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。 ⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。 ・体験観光メニューの充実等 ⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・日高村</p>	<p>を活かした体験型観光のメニューを充実させる。 ⇒カヌー、ラフティングの基地整備に向けて越知町と観光協会が協議中</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験型観光入込客数: 23,500人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>体験型観光入込客数: 16,200人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>体験型観光入込客数: 15,700人 → 実績 12,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在3隻運航を行っているが、仁淀川漁協総会にて5隻運航が承認され、夏期シーズンに向けて準備中 ・乗船者数: H24年度 1,785人(5/6~)、H25年度 3,277人、H26年度(4~7月) 1,691人 ・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス ・発着場に近接した河原への遊歩道整備が決定(完成: H27.2月末) ・屋形船の発着場の敷地内に村単独事業での公衆トイレの設置が決定(完成: H26.12月末) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の視点だけでなく、地域コミュニティの場づくりを含めた拠点施設の整備が必要 ⇒役場内でのプロジェクト会議での検討や、地域住民との合意形成による施設整備を進める。 ・ツアー客に対応できる集客力の向上と情報発信 ⇒5隻(うち予備1隻)運航での利用人員の増 ⇒他の観光資源と連携したパッケージでのセールスやイベントの開催 ⇒村内の観光資源PRのためのツールの作成や新「さんさん市」での情報発信 ⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 20(株)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進（仁淀川町） ※交付決定 6/13</p>	<p>仁淀川町のカット野菜事業については、カット野菜の需要の増加により現施設での生産能力が限界に達し、受注できない状況が生じている。この課題解決のため、施設整備に向けた事業計画書の作成や投資可能な財務環境づくりを目指して専門家に経営分析等を委託し、指導・助言を得ることにより、課題を明確にし、その解決を図る。</p>	<p>3,527 (1,633)</p>

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（予定）項目

[追加]

■ 生姜等加工品製造施設整備事業（いの町）

仁淀川流域の基幹品目である、生姜の増産及び加工品の生産性の向上を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することにより、いの町内等の生姜生産者の所得の向上及び雇用拡大につなげる。

[修正]

■ 「No. 18 いの町商店街（仁淀川七色商店街）の活性化」の第2期計画の修正

（理由）いの町商店街再生プラン（H25年度策定）を実践するための取り組みが明確になったため

■ 「No. 28 集客施設の整備による新居地区の活性化」の名称と事業主体、主な内容の修正

（理由）国庫補助事業において「観光交流施設」として整備することが決定し、事業の名称と事業主体、事業内容に変更が生じたため。

4 県民参画に向けた取組

- ・いの町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/20)
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介(5/21)
- ・土佐市商工会総会、越知町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/23)
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明(5/26)
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介(4件)

5 相談案件：10件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/9	建築・木材販売加工	仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン住宅の開発及び販売促進

NO.	相談日	事業種別	相談内容
2	5/28	農産物等販売	農産物直販所の拡充整備
3	5/29	乳業	牛乳製造の能力向上のためのボイラー設備等の増設
4	6/3	食品加工	ケールの生産者確保及び乾燥機器の導入
5	6/6	食品加工	ブラックベリーの加工・販売体制の確立
6	6/18	食品加工	お茶のスイーツの加工施設や経営体制の充実強化
7	6/24	食品加工	生姜加工施設の建設
8	6/26	食品加工	カット野菜の洗浄施設の整備
9	7/9	豊縁加工販売	豊縁を使った製品の販売促進
10	7/15	食品加工	ブルーベリーを活用した菓子の製造開発